

OpenRTM-aist (C++) - 機能 #3442

rtm-namingをomniORB4.2に対応させる

2016/02/17 16:02 - n.kawauchi

ステータス:	終了	開始日:	2016/02/17
優先度:	通常	期日:	
担当者:	n.kawauchi	進捗率:	100%
カテゴリ:		予定工数:	0.00時間
対象バージョン:	RELENG_1_1		
説明			
omniORB4.2からの変更に対応する			
1. omniNamesの以前のバージョンはデータファイルを「.log」として出力していたが、omniORB4.2からは「.dat」ファイルに変更となった			
2. datファイルの出力先を指定する「-datadir」オプションが新設された			
3. omniNamesの以前のバージョンとの互換性のため、「-logdir」オプションも残っているが、「-datadir」と同じ機能になっている			
http://omniorb.sourceforge.net/omni42/omniNames.html			

関係しているリビジョン

リビジョン 2703 - 2016/02/17 16:15 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_1] rtm-naming has been supported omniORB4.2. refs #3442

リビジョン 2703 - 2016/02/17 16:15 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_1] rtm-naming has been supported omniORB4.2. refs #3442

リビジョン 2703 - 2016/02/17 16:15 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_1] rtm-naming has been supported omniORB4.2. refs #3442

リビジョン 2706 - 2016/02/18 16:03 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_1] Forced reading of OMNI_ROOT has been added. refs #3442

リビジョン 2706 - 2016/02/18 16:03 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_1] Forced reading of OMNI_ROOT has been added. refs #3442

リビジョン 2706 - 2016/02/18 16:03 - kawauchi

[compat,->RELENG_1_1] Forced reading of OMNI_ROOT has been added. refs #3442

履歴

#1 - 2016/02/17 16:23 - n.kawauchi

- ステータスを新規から解決に変更

- 対象バージョンをRELENG_1_1にセット

- 進捗率を0から100に変更

Windows用のrtm-naming.batは、次期リリース1.1.2版のインストーラがomniORB4.2.1対応となるため、1（datファイルが存在すれば削除する）と2の修正を行った。

Linux用のrtm-naming.inは、datファイルの削除処理のみ追加した。

#2 - 2016/02/18 16:24 - n.kawauchi

OpenRTM-aist1.1.2版に対応するため、OMNI_ROOTを強制読み込みする処理を追加した。

システム環境変数でVCのバージョンを変更した時、OSを再起動せずともOMNI_ROOTのパスが切り替わるようにするため。

[r2706](#) に対応。

インストーラの「VCのバージョンに応じてPATHを切り替える仕組み」ページの

[[openrtm_cxx_installer:VCのバージョンに応じてPATHを切り替える仕組み# OMNI_ROOT利用時について|OMNI_ROOT利用時について]] を参照。

#3 - 2016/08/09 15:06 - n-ando

- ステータスを解決から終了に変更

1.1.2をリリースしたので終了としました。ありがとうございました。